

令和5年度 学校評価(自己評価) 兵庫県立こやの里特別支援学校

学校目標 「子どもが育つ学校～こころ・からだ・きずな」
学校教育方針

「児童生徒一人一人の可能性を可能な限り伸ばし、社会の一員として自立し、自己実現と共生に向けて主体的な取組を行える児童生徒の育成を目指す」

令和5年度 学校自己評価目標

- (1)安全・安心で美しい学校をめざします。
(2)学校から積極的に情報を発信し、家庭・地域とさらに、多様に、つながります。
(3)校務や教育におけるICT機器の活用を推進します。
(4)校内研修を充実させ、教職員の資質向上を図ります。
(5)社会的自立に向けたキャリア形成の支援に努めます。

評価基準

A(4):よくできた
B(3):できた
C(2):あまりできなかった
D(1):できなかった

別添資料2－2

評価基準

A(4):はい そう思う
B(3):どちらかといえばそうである まあそう思う
C(2):どちらかといえばそうではない あまりそう思わない
D(1):いいえ そう思わない
E(0):知らない わからない

アンケート回収数

小学部 :91人

中学部 :38人

高等部 :55人

分教室 :17人

訪問教育:0人

アンケート項目(職員)					
	学部・分掌目標	具体的な取組	達成状況(今年度実績)	評点	評価グラフ
小学部 重点目標 (3)(5)	1 キャリア教育における挨拶と人とのかわりを重視し、自分なりの方法で挨拶や返事をしたり、友達や教師に呼びかけたりすることができる。	1 朝の会や終わりの会で挨拶や呼び返し返事をする場面を設定して、継続的に取り組む。また、友達や教師と関わる際に声をかけたり、肩をたたいたりして呼びかけるよう指導支援を行う。	1 登校時、教室への入室場面や朝の会での挨拶場面を設定し、毎回繰り返したことで、個々の児童の実態に応じた方法で、挨拶や返事をするができるようになってきた。友達や教師への呼びかけについては、引き続き支援が必要な児童も多いが、声をかけたり肩をたたいたりするなど適切な方法でできる児童も増えた。	3.66	
	2 キャリア教育における役割の理解と分担を重視し、決められた仕事を最後まで行うことができる。	2 児童の実態に応じた朝の会の司会や当番活動を設定し、教師と一緒にしたり、繰り返し取り組んだりして定着できるように指導支援を行う。	2 各クラスの児童の実態に合わせて目標を設定し、朝の会での司会や当番活動を設定して継続して取り組むことができた。また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し行動制限が緩和されたことで、給食時の食缶運びや返却、牛乳やパン配りなど個々の目標に合わせて取り組むことができた。自分の係の仕事を理解し、一人で取り組むことができる児童も増えつつある。	3.62	
中学部 重点目標 (3)(5)	1 学習活動や日常生活の指導において、自分の役割の理解と活動を重視し、最後まで役割をやり遂げようとする態度・意欲を身に付ける。	1 学級活動や授業等において、当番活動や係活動を設定し、一人ひとりに応じて取り組みやすいように支援を工夫する。役割を明確にし、個々の実態に合った取り組みやすい活動から始め、自己肯定感を高める。	1 キャリア教育の観点から一人ひとりの実態に応じた役割を設定し、目標を達成できるように支援方法を工夫した。毎日の取組の中で、少しずつ自分の役割を果たし、教師や友達に認められることで、自己肯定感を高めた生徒も増えた。	3.48	
	2 場や状況に応じて適切に行動できるように意識でき、状況に応じた挨拶を知り、適切な言葉遣いで他者との関係を意識できるようにする。	2 授業や日常生活において、状況に応じた挨拶の仕方を伝え、場面ごとに挨拶を促す。「ありがとう」「手伝ってください」等を伝えるイラストカード等の支援ツールを活用しながら、他者とのやり取りを促していく。	2 日常生活場面では、朝の会や終わりの会、休み時間も含めて教師や友達と関わる際に適切なコミュニケーションを身に着けるような取り組みを行い、丁寧に適切な言葉や行動が増えた生徒もいた。各授業においても、挨拶や質問、感謝の言葉などを教師の言葉かけやICT機器、イラストカード等を活用し、視覚支援することで、適切なやり取りを学ぶことができ、実際に日常生活においても活用できる生徒もいた。	3.46	
高等部 重点目標 (3)(5)	1 人とのコミュニケーションを大切に、場に応じた挨拶、返事などを含めた人との接し方を身につけられるよう指導支援を行う。	1 課題学習、SST、HR等の時間を利用し、場に応じた挨拶や返事の仕方などを繰り返し伝え、練習する。語先後礼の挨拶、適切な声の大きさでの返事、身振りで応答、他人との距離感などの個々の課題に応じた目標を設定し、わかりやすく提示する等して自発的に取り組めるようにする。	1 登下校や始業・終業時、入室時もしくは、SSTや道徳の時間、現場実習などのさまざまな場面で、場に応じた挨拶や返事などを継続的に指導することにより、他学年の教師にも挨拶ができたり、以前より大きな声が出せるようになったり等、人との接し方について一定の成果がみられた。また、イラストカードの使用や身振りで応答など、個に合わせた取組ができた。	3.56	
	2 社会的自立を目指し、責任をもって自分の役割が果たせるよう指導支援を行う。	2 朝の会、終わりの会、係活動、委員会活動等において、個々の役割を説明し、繰り返し取り組むことで、自分の役割を理解し、自ら取り組めるように支援する。クラスの一員としての役割を自ら果たせるよう、個に応じて視覚支援やICT機器を活用するなどし、わかりやすい方法で示す。	2 教科係や委員会等、担当する場面を設定し、見通しを持って活動することができた。修学旅行や宿泊学習等の行事において、全員が係を担当し、責任を持って準備や活動ができた。個に応じた役割を精査し、少しの支援で取り組めるよう、指示を簡略化したり、当番表や手順表を準備したりした。役割を忘れた場合も、再度取り組めるような場面を設定し、最後まで自分の役割に責任を持たせる取組ができた。	3.44	

アンケート項目(保護者)						
	取組について	評点	評価グラフ	取り組み効果について	評点	評価グラフ
小学部	今年度、小学部では「挨拶や返事」「当番活動の仕事に取り組む」ことの指導支援を行っています。 学部の取り組みについて伺います。 ①上記重点目標の内容について、学校はよく取り組めていたと思いますか。	3.41		②挨拶や返事について、お子さまの変化や成長を感じられますか。 ③学校での当番活動などの取り組みから、お子さまの変化や成長を感じられますか。	3.22 3.31	
	今年度、中学部では「役割の理解と実行」「場に応じた適切な行動」の指導支援を行っています。 学部の取り組みについて伺います。 ①上記重点目標の内容について、学校はよく取り組めていたと思いますか。	3.42		②役割の理解と実行(やり遂げようとする態度・意欲)について、お子さまの変化や成長を感じられますか。 ③場に応じた適切な行動(挨拶・言葉遣い・他者との関係)について、お子さまの変化や成長を感じられますか。	3.37 2.95	
高等部	今年度、高等部では「人との接し方(挨拶・返事など)」「責任を持って自分の役割を果たす」ことの指導支援を行っています。学部の取り組みについて伺います。 ①上記重点目標の内容について、学校はよく取り組めていたと思いますか。	3.20		②挨拶、返事などを含めた人との接し方について、お子さまの変化や成長を感じられますか。 ③「責任を持って自分の役割を果たす」について、お子さまの変化や成長を感じられますか。	3.05 2.93	

成果と今後の課題	
1 朝の挨拶や帰りの挨拶では、朝の会や帰りの会で毎日継続して取り組んだことで、自分から挨拶ができる児童も増えてきている。返事については、児童の実態に応じた方法で返事することができた。今後、友達同士での挨拶にも広がっていくよう引き続き取り組みを進めていく。	2 各クラス児童の実態を把握し、児童の課題に合わせた係活動や当番活動に取り組んだ。初めは教師と一緒に取り組んでいた児童も、徐々に支援を減らし一人でできるようになったり、係活動を楽しみに意欲的に取り組んだりする児童もいた。学校での取り組みを、保護者と共有し、家でのお手伝いやデイサービスでの取り組みにつなげていきたい。
1 「役割の理解と実行」では、日常生活における活動や係・委員会活動などにおいて実態に応じて個々の役割を設定し、教師が指示を出さずに子どもが自分から主体的に活動できることを目標に取り組んだ。日常生活への般化を目指し、保護者とも情報共有する中で、保護者の評価も比較的に高かったと思われる。ただ、変化を感じられないと感じている保護者もおられるので、生徒の少しの変化を保護者と共有できるよう日々の連絡帳や電話など、いろいろな機会を活用して共有していきたい。	2 「場に応じた適切な行動(挨拶・言葉遣い・他者との関係)」については、学部として長年取り組んでいる目標である。教師はある程度成果が上がっているという認識であるが、家庭での変化はなかなか感じられないと思っている保護者も一定数おられる。高等部につながる学部として、自立と社会参加は中学部の取り組みとして意識していることなので、より日常生活へ般化できるように授業や日々の指導を充実させていきたいと考えている。
1 教師側はよく取り組めているという評価である。実際、学校生活の様々な場面で挨拶や返事、人との接し方についての指導をどの学年も計画的に取り組んでいた。保護者からも概ね変化や成長を感じられるという回答であった。ただ、重度障害を持つ生徒については、なかなか変化を感じられないという保護者側の思いもある。学校での取り組みや生徒のわずかな変化でも家庭に知らせ、連絡を密にし、生徒の成長を共有していくことが今後必要だと考える。	2 「責任をもって自分の役割を果たす」力は、高等部卒業後を見据えた場合、在学中の生徒に付けたい力の一つである。各学年ともそれぞれ工夫をし、どの生徒にも個に応じた取り組みができた。ただし、それが生徒の力として定着し、成果として現れるためには時間がかかるため、今後も丁寧に継続した指導が大切となる。引き続き、個に応じた方法で継続的に取り組む必要がある。

	学部・分掌目標	具体的な取組	達成状況(今年度実績)	評点	評価グラフ
分教室 重点目標 (2)(5)	1 生徒が自立に向かう意識を高められるように、家庭と連携しながら、生徒自身でできることが増えるようにする。	1 学校生活の様子を具体的にHP(ブログ)や通信・連絡帳で伝える。個々のできていることとできていないことを家庭と共有し、個人の能力が発揮できる環境づくりに努める。	1 HP(ブログ)や通信・連絡帳を活用し、普段から家庭との連絡を密にすることができた。特にブログの発信を増やしたことで、生徒の実態を知っていただき保護者からも好評価を得た。	3.48	
	2 卒業後の生活を見据えた進路実現ができるよう進路指導の充実を図る。	2 各学年と進路担当との連携を図るだけでなく、分教室全教師でその生徒が目指す進路を共有し、日々の活動で意識した関わりをする。	2 分教室全教師で進路に関する意識を高められるように情報共有を進めている。	3.12	
	3 交流及び共同学習の充実・発展を目指す。	3 事前準備については、交流校との打ち合わせ機会を多く設定する。事後については、振り返る機会を、教師・生徒共に設けて今後に活かす。	3 交流校との打ち合わせを密にするように心掛けたが、交流及び共同学習に対する理解が得られていないという新たな課題が感じられた。事後のアンケートを教師、生徒共にとったことで、交流の効果や改善点に気付くことができた。	3.20	
訪問教育 (2)	1 生活リズムを整え、生きる意欲を高める力を育むために、家庭、医療、福祉との連携を図る。	1 行事への参加時には主治医からの意見書を参考にしたり、リハビリを見学して理学療法士からの指導助言を活用したりして、活動内容や学習内容を充実する。	1 医療との連携に関しては、いくつかの課題を残したが、本校生徒と一緒に学校行事に参加することで良好な刺激となり、活動意欲を高め生きる意欲を育むことができた。リハビリを見学してPTの関わり方や身体へのアプローチ方法や手段を知り、教育的立場からどのように活かせるか吟味して教育活動に活用した。	3.48	
	2 定期的なスクーリングの実施や当該学年と同課題の設定、タブレット映像での学習交流、校外活動への参加を通し同年代の友達と触れ合う機会を充実させる。	2 学部学年の教師と積極的に連携を図り、学習内容の設定をしたり、学校の様子を映像で見たりしながら、同学年の友達や他者と触れ合うことで豊かに生活できるようにする。	2 1ヶ月に一度は同学年の友達と触れ合える機会を設定し、スクーリング実施や校外活動参加を行った。また同学年と同じ学習内容を自宅においてできる範囲で設定したり、他者の学習の様子をタブレット映像で見たりして、学習意欲を高められるよう教育活動内容を工夫した。	3.46	
支援部 重点目標 (2)(4)	1 全校児童生徒の状態を把握し、校内の関係部署や外部の関係機関と有効につながり、支援する。	1 担任・学年・学部間でも情報を共有できるように報告・相談用紙を活用する。日頃の様子や情報を必要に応じて校内の関係部署と共有する。また福祉や専門家につなぎ、児童生徒の支援をすすめる。	1 報告・相談用紙を活用し、情報を共有できた。聞き取りも適宜行い、担任・学年・学部・分掌の関係機関と外部との連携が必要かどうかを相談しながら支援をすすめることができた。	3.38	
	2 家庭・福祉・学校の連携を推進し、児童生徒へのより良い支援を行う。	2 三者間の連携について職員会議等で周知する。保護者にはプリント配布及び懇談会等で説明を行う。連絡帳の共有や個別の教育支援計画作成において関係機関と連携を希望するかの確認を行う。事業所にはプリント配布やホームページ、連絡協議会等で周知を行う。日々の情報共有や連携会議等には適宜対応する。	2 職員、保護者、事業所への周知を行った。事業所利用は全体の85%、その内連絡帳の共有については85%が希望している。校内で適宜閲覧し、必要な情報を共有できた。個別の教育支援計画作成では保護者の協力を得ながら関係機関への聞き取りを行った。連携会議や保育所等訪問の依頼には校内の関係機関と共に適宜対応した。	3.39	

	取組について	評点	評価グラフ	取り組み効果について	評点	評価グラフ
分教室	今年度、分教室では「自立に向かう意識を高める」「進路指導の充実」「交流及び共同学習の充実・発展」の指導支援を行っています。分教室の取り組みについて伺います。			②「自立に向かう意識」について、お子さまの変化や成長を感じられますか。	3.12	
	①上記重点目標の内容について、学校はよく取り組めていたと思いますか。	3.18		③進路実現に向けて、お子さまの変化や成長を感じられますか。	2.76	
				④お子さまが充実した交流及び共同学習を行っていると感じられますか。	2.82	
訪問教育	今年度、訪問教育では「家庭・医療・福祉との連携」「当該学年の友達と触れ合う機会の充実」の指導支援を行っています。訪問教育の取り組みについて伺います。	0.00		②学校・家庭・医療・福祉との連携は十分に図られていると感じられますか。	0.00	
	①上記重点目標の内容について、学校はよく取り組めていたと思いますか。			③当該学年での学習は、お子さまにとって有意義な学習となっていますか。	0.00	
支援部				①学校は、校内外の関係機関と連携して、お子さまの支援を進めることができますか。	2.86	

成果と今後の課題
1 日常生活や各教科の指導で自立への意識が高められるように取り組んだ。また学校生活の様子は、日々の連絡帳の記入や学年通信、ブログなどで密に家庭との連絡をとるように心掛けられた。特にブログの発信を増やしたことで、生徒の実態を知っていただき保護者からも好評価を得た。
2 個々の生徒に応じた相談や情報を、担任だけでなく学年や分教室全体で共有することで、進路決定を行う3年生を中心に円滑な進路指導に取り組めた。分教室全体への情報共有は、日常の指導や会話の中で進めてきたが、研修や書面での情報提供を行うことでより充実した進路指導を図りたい。
3 生徒は例年より交流及び共同学習に関心を持つ生徒が増えた。教師の意識について課題が残った。教師の研修の必要性を感じた。交流校との打ち合わせを密にするように心掛けたが、意思疎通ができていない交流事業もあった。事後のアンケートを有効活用し、交流の益々の充実を図りたい。
1 通学生と同様の社会見学や修学旅行の実施に関しては、事前に主治医に実施要項などを知らせ、生徒にとって実施が可能かどうかの意見書を記入してもらった。また外出先の訪問生徒の受け入れ可能な救急病院への依頼文書を発送した。校外へ外出する際には医療的ケアのできる介助者が引率可能にならないかが今後の課題である。現在は保護者が医療的ケアを行う事での実施となっており、保護者が経費を負担することで医療的ケアのできる介助者を引率することは可能である。福祉での連携ではリハビリの様子を見学し、生徒の身体についての指導助言を受けた。
2 体調を整えつつ行事やスクーリングに参加することができた。友達の声や学校の様子を感じ取る、分泌を止めるなどして体調を整えて行事に参加することができた。見通しの持てる学習や担任以外の教師が同行すると積極的にコミュニケーションをとろうとする様子が伺え、意欲的な態度で授業を受ける事ができた。今後も動画等で見通しが持てるような学習に取り組んだり、体調を加味しながら行事参加をしたりして少しでも学校生活を感じ取れるような取り組みを図りたい。
1 教師の評価グラフから、児童生徒の支援について校内の関係部署や外部の関係機関との連携が概ねできたと考えられる。一方で保護者の評価グラフを見ると、24%の保護者が「そう思わない」「わからない」と感じている。必要な家庭には、一人で抱え込まず、外部機関との連携の必要性を伝えていきたい。
2 教師の評価グラフから、家庭・福祉・学校が連携して支援をすることが概ねできたと考えられる。今年度は連携会議だけでなく、保育所などの訪問数が増えた。今後も三者間の連携を推進していきたい。

	学部・分掌目標	具体的な取組	達成状況(今年度実績)	評点	評価グラフ
総務部 重点目標 (2)(3)	1 ホームページやイオン学校展、オープンスクール等を通して、本校の特色を発信し、保護者や地域への理解と啓発活動を推進する。	1 行事や日常の授業等の様子が、より伝わる写真を選定してブログを掲載する。	1 総務部を中心に職員全体で意識できるように、各学年で毎月担当を決めて取り組んだ。子供たちの生き生きとした姿の写真や記事から、本校の魅力が伝わるブログを掲載できた。また、ブログ回数も昨年度より多く掲載できている。	3.46	
		2 各学部の特色が伝わる授業内容や行事の様子を掲載したスライドを作成する。また、問題点や課題や説明会等で学校紹介ビデオとして活用する。	2 様々なシーンで活用できるように、短時間のスライドを作成した。学部ごとの活動内容がわかる写真を選定し、イオン学校展やホームページ掲載を行う。掲載に際しては、個人情報の同意書をもとに使用する写真の選定を行った。	3.30	
教務部 重点目標 (4)(5)	1 改編した教育課程を実践する中で、出てきた課題を整理しさらなる改善につなげる(キャリア教育につながる教育課程を編成する)。	1 各種教育課程委員会において、改編した教育課程の問題点や課題点を整理する。また、問題点や課題点について協議を行い、次年度以降の教育課程につなげるように改善する。	1 全校教育課程委員会や各学部教育課程委員会において、課題の整理を行った。中学部においては、社会と理科の教科指導について取組方法を検討した。高等部においては、職業の時間の取組内容や取組方法について協議を行った。	3.20	
	2 授業内容の精選(実施する単元の整理)と3観点を踏まえた評価規準の作成を行う。	2 各学部で各教科・領域の指導内容(単元)を再確認する。児童生徒の実態に合わせて内容を見直す。さらにそれぞれの単元について、3観点を踏まえた評価規準を作成する。	2 全校教育課程委員会において取組について各学部に周知した。年度末に完成させることを目標に取り組んでいる。	3.21	
進路指導部 重点目標 (2)(5)	1 個々の生徒の進路希望に対応できるよう幅広い情報を収集し、提供する。	1 進路通信やキャリアガイドブックを活用し情報を発信する。掲載内容を精選し、わかりやすく伝えるように工夫する。また、パンフレット置き場を充実させる。	1 進路通信の発行回数が少なかったが、各関係機関と連携し、「合同事業所説明会」や事業所が主催する「体験会」「見学会」等の案内を配布することができた。また、パンフレットを事業所からいただき、設置すると共に説明時の参考資料とした。	3.21	
	2 卒業後の進路について関心を持てるよう、進路行事の在り方や内容を工夫する。	2 校内実習や現場実習、卒業生を迎えての懇談会等の行事を活用し、生徒自身が進路について考える機会を設ける。	2 各行事を通し卒業後の進路について、「どのような進路があるのか」「どのような力をつけていく必要があるのか」など、生徒及び保護者の方も考える機会となった。	3.23	
生徒指導部 重点目標 (1)(2)	1 児童生との実態や感染症等の状況に応じた、児童生徒の活動を推進する。	1 新型コロナウイルス感染状況により訓練行事などを見直し、取り組む。	1 訓練行事は児童生徒数の増加により、学部学年ごとに分散しての集合解散を行った。非常食等の児童生徒への配布は他の分掌と連携できた。	3.39	
		2 児童生徒が主体的に生徒会活動に取り組むことができるように推進する。	2 児童生徒会では各クラスの委員長も含めた拡大会議を実施することができた。	3.24	

	取組について	評点	評価グラフ	取り組み効果について	評点	評価グラフ
総務部				①ホームページやブログなどを通して、学校行事や授業の様子をお伝えすることができていますか。	2.72	
教務部						
進路指導部				① 進路指導部からの発信は、わかりやすく役に立つ内容でしたか。	3.20	
				②本人・家庭・担任・進路指導部との連携が図られていましたか。	1.18	
生徒指導部				①訓練行事は充実していると感じられますか。	2.74	
				②児童生徒会の活動が活発になされていると感じられますか。	1.72	

成果と今後の課題
1 学年で毎月担当を決めるなどして、ブログ掲載に対して全職員が意識して取り組むことができた。今後は、学部紹介や行事予定、各種たよりなどの更新が随時行われているか、定期的に確認し、ホームページの更なる充実を図る。
2 各学部の活動が伝わる内容を厳選して、スライドを作成することができた。また、個人情報の同意書も配慮して写真の選定も行うこともできた。今後は、学校紹介スライドの写真は数年単位で更新していくが、学部ごとの紹介だけでなく、学校概要や行事など、学校全体で必要な内容も紹介できるように、多方面と連携して作成していく。
1 全校教育課程委員会や各学部教育課程委員会において、課題の整理を行った。中学部においては、令和6年度より社会と理科の教科指導を実施することが決定した。高等部においては、職業の時間の取組内容や取組方法について協議を行い、新しい教育課程に合わせた内容やグループ編成を決定した。分教室においては、開室時に編成した内容を大幅に見直した。進路実現に向けた「職業」の授業を充実させ、実践的な学習ができる教育課程を編成した。 2 全校教育課程委員会において取組について各学部に周知した。年度末に完成させることを目標に取り組んでいるが、学部によって進捗状況に差がある。来年度も引き続きの課題にしたいと考えている。
1 事業所のパンフレットやお知らせをプリントを活用することで、情報を共有することができた。生徒たちの進路実現のため、引き続き進路からの発信内容・方法を検討していく。 2 進路に関する行事などが行われる高等部2、3年生とのやり取りが中心となっている。そのため、幅広く進路について投げかけていく必要があると考える。引き続き改善していく。
1 計画を立てた訓練行事は滞りなく実施することができた。今後も、いつでも災害に対応できるよう、引き続き訓練内容を改善していく。 2 参加児童生徒数を増やして会議ができたことで、多くの交流と意見交換を行うことができた。児童生徒会の活動を以前にも増して知ってもらえるよう、ホームページなどを活用し情報を配信していく。

	学部・分掌目標	具体的な取組	達成状況(今年度実績)	評点	評価グラフ
保健部 重点目標 (1)(2)(4)	1 児童生徒が健康で、安心、安全な学校生活を送るため、状況に応じた感染症対策を継続する。	1 感染症対策においては、家庭、学校全体で連携する。また、校医などの専門家の意見を参考にする。保護者や教師に積極的に情報発信を行う。	1 こやのさとスタイル(ダイジェスト版、マニュアル)の見直しを感染状況に応じて行った。その都度、校内グループウェアと学校ホームページにアップし、全職員と保護者が情報共有できるようにした。	3.46	
	2 児童生徒に自らの健康を守るための能力を身に付けられるように、感染症の予防対策を含む保健学習を行う。	2 月間保健目標及び給食目標についての学習を通じて、心身の健康教育を行う。	2 月間保健目標と給食目標についての学習を実施できるよう、保健部が教材(プレゼンテーション)を作成し、(生徒用ファイルサーバーに入れ)各クラスで活用できるようにした。	3.41	
	3 安全・安心な学校給食の実施に努め、旬の食材を使用するなど、献立内容の充実を図り、学校給食を「生きた教材」として活用した指導を行う。	3 給食だよりを通じて、食についての情報発信をする。また、「こんだてひょう」の一ロメモを活用し、毎日の給食指導につなげる。	3 給食だよりを配布し、感染症予防に役立つ衛生管理や栄養に関する情報を発信した。クラス掲示用の献立表には献立名だけでなく、毎日の食に関する情報も掲載した。	3.43	
研究部 重点目標 (4)	1 校内研修会や学年の研究日等を通して、PDCAサイクルを考えた授業づくりを共通認識し、研究日等を活用しながら、「学びあい、ともに伸びる授業づくり」を学年等で考え、実践する。	1 児童生徒の「つきたい力」を考え、観点別評価シート等を活用して、児童生徒に関わる教師が話し合い、授業前後の評価を行うことで、一人ひとりに適した支援方法を模索する。また、「ほめる」ポイントも確認し児童生徒の意欲を引き立てる雰囲気をつくる。	1 今年度の授業づくりについて最初に全体研修を行い、共通理解を図った後、研究日に各学年ごとに研修を行った。実態を把握し、今必要な力を精査し、どのような手だて支援を一人ひとりに行うかなど話し合った後実践した。研究日を活用し定期的に行うことでR-PDCAサイクルの流れで取り組み、授業を改善し共通理解を図りながら取り組むことができた。	3.20	
自立活動部 重点目標 (4)(5)	1 自立活動研究日を計画的に運用し、研修機会を設定する。	1 各学部の状況に応じて自立活動研究日を設定し、効率的に運営する。	1学部の実態に応じて研究日の日程を組み、計画的に実施することができた。予め資料等を準備しておくことで理解を深めることができた。	3.27	
	2 児童生徒の実態に基づく専門的な指導方法を共有し、充実させる。	2 事例研究・授業研究・専門家の情報等を活用する。	専門家からの助言や、授業づくりの工夫を学年、学部等で共有することで、指導方法や指導の視点を共有することができた。	3.23	

	取組について	評点	評価グラフ	取り組み効果について	評点	評価グラフ
保健部				①学校の感染症対策について、分かりやすくお伝えすることはできていましたか。	3.20	
				②保健目標や給食目標の内容を通信などで、お知らせすることはできていますか。	3.37	
				③安全・安心で充実した給食を提供することはできていますか。	3.22	
研究部				①学校の授業は、お子さまに合っていますか。		
自立活動部					3.39	

成果と今後の課題
1 こやのさとスタイル(ダイジェスト版、マニュアル)を感染状況に応じて、見直しを行った。その都度、校内グループウェアと学校ホームページにアップし、全職員、保護者と情報共有できるようにした。年度の途中で5類へ移行したため、来年度からは目標の見直しが必要である。
2 月間保健目標と給食目標についての学習を行うよう、教材(キーノート)を製作し各クラスで活用してできるようにした。まだ、毎月実施できていない学部があるので、今後も周知徹底していく必要がある。
3 給食だよりを配布し、感染症予防に役立つ衛生管理や栄養に関する情報を発信した。クラス掲示用の献立は毎日の食に関する情報を提供するように変更した。アレルギー対応においては、引き続き保護者・担任・栄養教諭のトリプルチェックで慎重に進めていく必要がある。
1 一人ひとりの目標・手だて評価を考えた授業づくりを行った。実態把握をした上で学年ごとに目標や手だて、評価について話し合い、日々授業改善を行う流れを作ることができた。本校の児童生徒にとって有益と思われる研修について各学部学年に周知し、今後も全体の教育活動のレベルアップを図る。
1 研究日を設定し、各学部に応じた内容で計画的に実施することができた。今後も児童生徒の実態を踏まえて、理解が深まるように計画してしていくことが大切であるとする。
2 児童生徒の専門家からの助言を事例報告会で共有し、授業研究により授業づくりの工夫を行うことができた。来年度も言語聴覚士、作業療法士の事例相談の日程を確保することで専門家の助言や授業づくりの工夫を行っていきたいと考える。